

参考情報：企画応募フォームの書き方

Tokyo Docs 委員会

Tokyo Docs への応募を検討していただき、ありがとうございます。企画応募フォームは、主に海外のデジジョンメーカーに読んでもらうためのものです。「どうすれば海外デジジョンメーカーに、本来の意図をしっかりと伝えられるのか」を、考慮したアドバイスをまとめました。参考にいただければ幸いです。

◆海外デジジョンメーカー向け！

企画応募フォームは新聞のラテ欄向けの広報文ではなく、あくまでデジジョンメーカーに読んでもらうためのものです。「**博識の業界関係者ではあるが、日本の専門家ではないデジジョンメーカー**」たちに、どう書けば意図が伝わるのか？という点が重要です。また、「果たして結末は？」、「結果は乞うご期待！」、「主人公の決断はどうなる！」といった形ではなく、結末、顛末、決断までをしっかりと書きましょう。

◆タイトル

欧米では、ドキュメンタリーのタイトルは4, 5単語しかない短いモノが主流です。「企画の内容を分からせる、説明する」という狙いではなく、「視聴者を惹きつけるため」のものと考えられています。(日本と傾向が似ているドイツでは副題を使うなど、海外といっても色々なケースがありますが・・・)

例えば NHK が国際共同制作で参加したカナダのドキュメンタリー「ロキ野戦病院 ～スーダン難民を救え～」の原題はわずか2単語の「War Hospital」です。NHK でのタイトルには、場所や狙いが込められていますが、原題はキャッチーさを重視しています。

Tokyo Docs でも、「副題を付けずに、なるべくコンパクトなタイトルとする」事を原則とします。

◆Logline

企画の狙い目、ポイント、本質をコンパクトにまとめます。デジジョンメーカーはまずログラインを読み、そこで興味を持たなければ番組概要さえ読んでもらえないケースもあります。Logline を魅力的に書くことはけっこう大切です。

参考例 1 「NHK“課外授業ようこそ先輩”」

→「各界の有名人が出身小学校で、特別授業を行い後輩たちに熱いメッセージを送る」

参考例 2 「NHKスペシャル“世界初撮影！深海の超巨大イカ”」

→「伝説の怪物で18mにも及ぶダイオウイカ。初めて深海で生きた姿の撮影に成功！」

◆”番組概要”

企画の全体像をわかりやすく書きます。あらすじ、テーマ、テーマを巡る社会情勢などの背景、ディレクターの意図、企画のユニークな点などをバランス良く配置してください。

「追い詰められた主人公はどのように決断するのか？」といったように、結末を隠すことは避けてください。視聴者向けの広報文ではありません。企画に参加することを検討しているデジジョンメーカー向けの文章です。結末が分からないままに、制作資金を提供してくれる心の広いデジジョンメーカーはまずいないとお考えください。

◆“詳しい説明”

このパートでは二つの選択肢があります。一つはストーリーラインを詳しく書くこと。二つ目はいくつかの構成要素を併記することです。

(1) ストーリーラインを書く

まだ完成前のドキュメンタリーなので、ストーリーを完璧に書くことはできません。しかし“国際共同制作”では企画が完成する前に、デジジョンメーカーたちに参加を決断させなくてはなりません。ある程度は想定で構わないので、ドキュメンタリーの筋立てを書きます。

Beginning ～	どのように始まるのか
Set up ～	主人公、描くべき対象の抱える課題、問題点、葛藤、Conflict は何なのか？ 主人公やサブキャラクターが課題、問題点、葛藤、Conflict とどう対峙するのか？
Dramatic Arc ～	ストーリーの山場、クライマックスは？
Ending ～	結末は？主人公たちは、課題、問題点、葛藤、Conflict をどう解決するのか？

(2) 構成要素を併記する

日本では、企画書の構成要素を重視する傾向があります。企画の核となる魅力的な構成要素があればおのずから番組は成立するという考え方です。こうした考え方に基づき、構成要素を併記します。下記のような構成要素が考えられます。

- ・この企画が初めて独占的に取り上げる事実 (Exclusive Access)
- ・企画をつらぬく普遍的なテーマ (Universal Issue)
- ・想定されるクライマックス (Dramatic Arc)
- ・取りあげるテーマの背景 (Background)
- ・主人公やその他の登場人物の説明 (Characters)
- ・ディレクターの動機、思い (Director's Statement or Director's Note)
- ・ドキュメンタリーのスタイル・演出方法 (Style or Visual Approach)
- ・進捗状況 (Project Stage)
- ・視点 (Point of View)
- ・付加情報 企画のセールスポイント

特に注意すべきは、ドキュメンタリーのスタイルです。取材者や監督と、主人公や登場人物との距離感、取材をする上でのスタンスなどは、はっきりと書く必要があります。

「スーパーサイズミー」のように、監督自身がカメラに向かって語りながら進めるのか？

カメラが“Fly on the Wall”、つまり壁にとまったハエのように誰もが気にしない存在となり客観的に撮影を進めるのか？

社会の不正を追及していくのか？ といったスタンスです。

◆プロデューサーやディレクターのプロフィール

日本のテレビ事情を知らない海外のデジジョンメーカーに、自らの経験、キャリアを分かってもらう事が目的です。自分がそういった立場となったことを想像しながら書いてください！
例文をご紹介します。

1983年日本放送協会に入局。報道番組を担当し、特に国際分野の番組を多く制作。南シナ海の領有権問題を描いた番組では、日本国内で賞を受賞。現在はNHKエンタープライズに所属し、アジアの社会問題を取り上げた国際共同制作ドキュメンタリーを主に制作。

自分が制作した番組のタイトルや国内での受賞歴を列記することは避けてください。「“NHKスペシャル〜アジアの火薬庫”を制作し、ギャラクシー選賞を受賞」と書いても、日本の事情を知らない外国の人たちには伝わりません。「南シナ海の南沙諸島の領有権問題を取り上げたドキュメンタリーを制作しNHKの最も重要な枠で放送。日本有数の権威ある賞を受賞した」と書けば、日本を知らない人でも分かるのではないのでしょうか。日本の事情を知らない人が読んでも分かるように、書いてください。

◆スタイル

海外のドキュメンタリーでは、ディレクターの視点、取材対象との距離感を重視します。また、一つの作品の中でスタイルは一つであることが多いです。「天の声たるナレーションで始まり、突然ディレクターが一人称で語り出し、さらに主人公のロングインタビューが続く・・・」といったように演出が混在する作品はあまり見受けられません。

こうした事を前提に、「客観的 主観的 解説的 調査報道 紀行 監督が登場 ドキュドラマ」を選んでください。客観的なナレーションを使って進めるのか？キャスターが画面に登場し主観的に一人称で進めるのか？情報性の高い解説的で Informative な内容とするのかといった方向性を考えて選んでください。

◆制作予算

国際共同制作の本質は、「制作資金を節約したいので、海外から予算をもって来る」ではなく、「なるべく長い期間で取材をし、撮影もたっぷり行い、ポスプロにも懲りたい。それには、日本のテレビ局から提供される予算では足りない。企画の内容を豊かにするため、制作予算を増やすために国際共同制作を行う」というものです。

確保済み資金 (Finance Providers) の欄には、資金を提供してくれているテレビ局、財団などの名前と、確保済みの予算額を書いてください。制作会社、制作者自らが、制作予算を負担する場合（つまり身銭を切る場合）も含めてください。

(2015.07.08)